

あけぼの

インターネットの中の嘘とホント ～快適なツールであるために～

私たちの暮らしの中でパソコンの使用が当たり前になり、携帯電話が話すだけの機器でなくなったのは、いつからでしょう。もしかしたら「生まれた時から」という人もいるかもしれません。

インターネットには、掲示板やSNSなど、簡単・自由に情報の収集や発信ができたり、コミュニケーションツールとして利用したり、私たちの暮らしを快適・便利にするさまざまな機能があります。知らない用語も、辞書を引かずにあっという間に意味が分かります。知らない場所も、簡単に地図が出てくるし、行き方も、かかる時間も教えてくれます。新聞やテレビを見なくても、今、何が起きているか、簡単に知ることができます。大きな地震や事件があったと聞いたと



きに、まず、インターネットで検索する人も少なくないのではないのでしょうか。

今回の「あけぼの」は、「インターネットと人権」について考えます。

情報化社会が加速する今、気付かないまま差別の助長に加担したり、逆に差別意識や偏見を刷り込まれたりしないために、「ネットの世界でどんなことが起こっているのか」「どんなことが人権侵害になるのか」「ネットで人を傷つけないためにはどんなことに気を付けたらいいのか」「ネットで人権侵害されたときにはどうすればいいのか」など、さまざまな視点から考えてみたいと思います。

インターネットの向こう側にいるのも自分と同じ「人」なんですよ。

人権コラム

インターネットと人権 ～その情報正しいですか～



市内で行われた人権講演会で「メディア・リテラシー」という言葉を知りました。あまり聞き慣れない言葉だったので、後で調べてみたところ「情報を読み解く能力」ということが分かりました。

現在、私たちの身の回りには、テレビやラジオ、新聞、インターネットなどからの情報があふれています。今後、こうした情報を読み解く能力が、ますます必要とされるのではないのでしょうか。その中で、近年、特にインターネットの普及が急速に進み、今では生活に欠かせないという人も少なくありません。

しかし、インターネットで最新のニュースや知りたい情報などを調べる際に、その情報が正しいかどうか自分でよく考えずに、そのままうのみにしてしまうことはないのでしょうか。

インターネット上の情報はすべてが正しいとは限りません。また、インターネットの匿名性や情報発信のしやすさを悪用し、部落差別を助長する目的で地名や人名が書き込まれたり、他人を誹謗中傷する差別的な書き込みや差別を助長するような表現が掲載されたりするなどの人権侵害が発生しています。インターネット上であっても、差別や偏見に基づく行為は、人格や尊厳を傷つけるものであり、決して許されるものではありません。

私たち一人一人が、自らの人権感覚を磨きながら、誰もが暮らしやすい、偏見や差別のない社会にしていきたいと思います。

私たち一人一人が、自らの人権感覚を磨きながら、誰もが暮らしやすい、偏見や差別のない社会にしていきたいと思います。

